

# 北海道研会報

北海道道德教育研究会

## 第 159 号

発行所：北海道道德教育研究会

事務局：〒007-0837

札幌市東区北 3 7 条東 2 0 丁目 3 - 1

札幌市立栄南小学校

TEL 011-781-1257 FAX 011-783-5964

発行人：鈴木 康 裕

編集人：荒 井 亮 子

## 道德科元年の札幌大会を礎に更なる進化を

第 54 回北海道道德教育研究大会札幌大会

大会長 鈴木 康 裕

(札幌市立あやめ野中学校長)



大会主題「主体的に学び合う児童・生徒の育成」、副主題～問いと対話で深める特別の教科 道德～のもと、第 54 回北海道道德教育研究大会札幌大会におきまして、440 名を超える参会者を迎え、無事成功裡に終えることができましたことを大変嬉しく思います。全道各地からご参会いただきました会員並びに教育関係者の皆様に改めまして心より感謝申し上げます。今回の研究大会を通して本研究会が本道の道德教育の推進と充実のため、今まで以上に力強く牽引していく使命と責任の大きさを痛感致しました。

また、研究大会開催にあたり、ご支援、ご協力いただきました北海道教育委員会、札幌市教育委員会及び会場校の教職員、関係者の皆様、本大会の企画運営、諸準備にご尽力いただきました札幌市道德教育研究会の会員の皆様に、心よりお礼申し上げます。

今大会は、5 年振りとなる札幌開催でした。札幌市道德教育研究会の会員の一人一人が、研究大会に向けて授業研究や各種研修等に精力的に取り組まれてきた成果が見られ、そうした道德教育への熱い情熱が大会を大成功へと導いたのでしょう。これまでの一連の取組とご苦勞に心より感謝し、敬意を表します。

今大会では、札幌市立栄南小学校で特別支援学級を含む 8 本、札幌市立あやめ野中学校で 7 本の授業が公開されました。どの授業もねらいとする道德的価値に迫るための「教材」を吟味した、多面的・多角的に考えるための発問の工夫、そして児童生徒が話し合い活動を展開する中で「他者」と共感し、対話や議論による授業の展開、さらには、授業で気付いた道德的価値を振り返りながら「自分」と向き合うことで、よりよい生き方について考えを深める授業が行われました。そして何より、教師と児童生徒が共に考え、共に語り合う場面が見られました。

また、授業分科会や課題別分科会では、参加された先生方の真摯に学ぼうという姿勢が随所で見られました。今年度からは小・中学校で道德科が全面実施されており、参会された先生方が、それぞれの学校現場で実践研究を積んでこられている内容の濃い研究討議となっております。

さらに、「今、求められる道德教育の展開」と題した文部科学省の浅見教科調査官のご講話は、我々教師が、これから道德教育を進めるにあたり、わくわくしてくるような、実に魅力的なそして的確なご示唆を頂きました。

これら札幌大会の成果が、参会された多くの先生方によって全道各地に広げられ、深められていくことを期待しています。そして、この成果を次年度の根室・中標津大会へと確かに繋げていきますように、「オール北海道」の精神で力を合わせて歩みを進めていきましょう。

# ただただ感謝



## 第 54 回北海道道德教育研究大会札幌大会

大会運営委員長 **荒島 晋**

(札幌市立新川西中学校長)

今回の大会は、それを待つかのような、札幌でも遅い初雪を見る中での開催となりました。2日間に渡り全道各地より440名を超える参加をいただき、札幌大会を無事遂行することができました。大会を終え、ご参会いただいた皆様、運営に奮闘いただいた皆様に感謝の気持ちで一杯です。

本大会は、大会主題「主体的に学び合う児童・生徒の育成」の下、副主題「問いと対話で深める特別の教科 道徳」を掲げて大会に臨みました。昨年度の小学校に続き、今年度は中学校で「特別の教科 道徳」が全面実施となり、小中足並みを揃えて研究実践に臨む初年度となります。そのような中、ご参加いただきました皆様にはとって、何か一つでもこれからの道徳教育に、これからのご自身の実践に資するものを得られましたら運営に携わった者としてこれ以上の幸せはございません。

本大会を終えて、札道研では若い会員と共に大会運営を振り返り、次回札幌での開催へ向けての運営の糧を渡したところです。また、大会を通して研鑽した研究・研修について振り返り、今後平時でも魅力ある札道研の研究推進と実践の取組を進めていく所存です。

改めて、参加くださいました皆様に感謝申し上げ、来年度の根室・中標津大会の盛会をご祈念いたします。

## 第54回札幌大会～授業者から

小学校2年授業者 **大松 浩一**

(札幌市立栄南小学校)

「友情・信頼」「思いやり、親切」に流れてしまわぬように、問い返しを大切にしておねらいとする「公正・公平」の学びになるようにしていきました。しかし、プレ授業をすると「人数が多ければ楽しい。」になってしまいました。公開授業では、「りすさんには、3匹と違う特技があるよ。」という流れになりました。討議では授業者から、「りすさんの特技の話は、個性の伸長に向かいそうで、どう取り上げて良いか迷った。」と質問させていただきました。多くの参会者から「そこが道徳の楽しさ!!」と教えていただきました。その子にとって、それぞれの理由を通して、公正・公平を考えていることを実感することができました。



# 第54回札幌大会～授業者から



小学校5年授業者 田澤裕子

(札幌市立栄南小学校)

離ればなれになってしまっても、友情は続けることができるだろうか。普段、友達がそばにいることが当たり前になっている子どもたちにとって、新たな友情の形に触れ、「友達っていいな。」「ずっと友達を大切にしていきたいな。」と感じられる授業にしたいと思い、この教材を選びました。指導案検討では、次第に友達と疎遠になっていく男の子の気持ちに、どうやって自分を重ね合わせることができるかというところに苦労しましたが、公開授業では、子どもたちからは「離れたって友情は壊れないよ!」「相手を知ろうとしたり、思い続けたりする気持ちが大切なんだよ。」という考えが聞かれました。

授業後の討議では、子どもたちが自我関与して発問に答えたり、自己の生き方を考えたりする時間をどのように生み出すかが大切であると教えていただきました。そのためには、もっと導入の在り方や時間配分をすっきりさせ、シャープに中心的な発問につなげるのが今後の課題であると感じました。会員の皆様や参会者の皆様のおかげで貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

中学校2年授業者 田村謙治

(札幌市立羊丘中学校)

「相互理解・寛容」という内容項目に迫るための授業づくりに多くの方々のアドバイスをいただきながら当日を迎えました。生徒たちは、いつもとは違う雰囲気の中、緊張しながらも「許すために大切なこと」について真剣考えてくれました。話し合いの中から出てきた意見や考えを、さらに深めるまでに至らなかった点が課題でした。

このような貴重な経験をさせていただいたことに感謝いたします。これからも、一人一人の生徒たちが「どう生きるべきか」について真剣に考え、活発な意見を交わす道德の授業を目指していけるよう、今後も努力を重ねてまいります。



# 第54回札幌大会～課題別分科会提案者から



## 第2分科会提案者 高野 克 (函館市立巴中学校)

「やってしまった…」15分の発表、10分の質疑・応答の予定でした。しかし、気付いたら25分間話し続けていました。しかも、自分に動揺しすぎて、一つだけあった質問にうまく答えることができませんでした。質問してくれた方に大変申し訳ないことをしてしまいました。

道徳の1時間の授業での評価は、多面的・多角的な見方と自分自身との関わりの2点です。どちらかというとな授業内容の評価ですが、通信表へ表記する評価は、道徳科全体での子どものよさなどを見取ることなので、『評価』については、少し分けてもいいと考えています。



## 第1分科会提案者 畠山 泰之 (岩見沢市立東光中学校)

「特別の教科 道徳」の実施にむけての本校の取組について提言させて頂きました。全教職員で授業実践を高めることを目指して行っている『ローテーション道徳』では、参加者から指導方法や評価における質問を受けることで、まだまだ本校として整備していかなければならないことを再認識する良い機会となりました。また全教職員による指導方法の統一や校区の小中3校の連携で行っている取組についても様々な意見を頂くことで、今後の本校の課題を改めて考えることができました。このような貴重な機会をいただいたことに心より感謝申し上げます。



## 第5分科会提案者 伊藤 陽子 (旭川市立近文第二小学校)

本校は、農村地域に建つ小さな学校です。3・4世代に渡って本校に通う家庭が多く、学校への協力には並々ならぬものがあります。この地域と学校とが手を携えて道徳教育を行うには、まず学校から地域の方に様子を聞くことだと、発表を通して再認識できました。この地域の方はしっかりとつながりを持ち、育ち合う風土があります。学校も、保護者や地域の方々に「子どもたちの心を育むことに寄与したい」と思って頂けるよう努力を重ね、地域全体での道徳教育推進に向けて取り組んでいきたいと思えます。

# 札幌大会特別講演



講師:文部科学省初等中等教育局教科課程課教科調査官 浅見 哲也 氏  
演題:「今、求められている道德教育の展開」

文部科学省初等中等教育局教科課程課教科調査官 浅見 哲也 氏により、「今、求められている道德教育の展開」と題して講演が行われました。

講演では、「全ての内容項目は、『生命の尊さ』が基盤」、「問題意識をもって、授業に臨む」、「自分との関わりで考える」、「子どもの学びの姿を見取って、褒めて励ましていくような評価を」、「多面的、多角的な見方へと発展していくように」、「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めていくように」、「板書の工夫を」など、数多くのご示唆をいただきました。参加した全ての人にとって実り多い講演となりました。

## 大会スナップ



### 第 5 4 回 北海道道德教育研究大会札幌大会

＊期日：令和元年 11 月 8 日（金）・9 日（土）

＊会場：札幌市立あやめ野中学校（中学校授業、授業分科会）

札幌市立栄南小学校（小学校授業、授業分科会）

ホテルライフオー札幌（課題別分科会、特別講演会）